# 視点

## 見張り塔から　メディアの今

**専修大教授・山田健太さん**

### 日本学術会議問題

# ひも付きの「学問の自由」はあり得ない

学問の自由は、これを保障する―。この極めてシンプルな憲法二三条は、学問研究、研究発表、教授といった、自由な研究内容や成果の発表、そしてとりわけ大学における教師が教える自由を保障するものと解されている。この規定は、戦前の大日本帝国憲法にはなかったし、諸外国の憲法の中でも一般的なものではない。ではなぜ「わざわざ」憲法条文に規定して保障することにしたのか。

理由はもっぱら戦争の災禍を受けての反省からで、戦前・戦中の澤柳、滝川等の事件を通じ、研究・教育の場から自由が消え去ってしまったことを鑑みてのことである。そしてこれらの経験が示すのは、単に個々の研究者の自由があるだけでは、学問の自由は簡単に奪われてしまう歴史だ。だからこそ、学問共同体（アカデミア）としての大学、学会等の活動を、きちんと保障する必要性がある。日本学術会議はまさに学者、学会を取りまとめた組織であって、この対象そのものだ。

このような自由を守る防波堤として重要なのが「大学の自治」である。個別に言えば、人事、施設や学生管理、研究教育の内容や方法、そして財政のそれぞれにおいて、大学の自主自律の決定に委ね、国をはじめとする公権力の干渉は許さないということだ。なかでも人事は重要なポイントで、対外的に大学の人事が独立していることと、学内において学長に対し教授会の人事権が守られていることと解釈されてきた。

しかし実際には、国立大学の学長選出方法や学内の任用手続きについては法改正によって、従前の解釈は風前の灯でかろうじて実態として守られているという状況だ。だからこそ、今回の日本学術会議の任命問題は、こうした「最後の一線」を突破して、直接的な人事権を行使してきたものとして大学関係者の総反発を受けているということになる。

さらに言えば、研究活動や大学運営において公的な支援が不可欠で、それによって十全な学問の自由が発揮できる環境が整うことになる。その意味で、各種助成制度は自由を実効あらしめるための国家の義務であるが、前提はあくまでも「国家からの自由」であって内容等への公権力の介入は一切許されない。学問研究・文化芸術分野において、ひも付きの自由はあり得ないことを、政府はじめ社会全体で再確認しておきたい。

（隔月掲載）

※過去の連載は本紙ウェブ版のほか「愚かな風」（田畑書店）で読むことができます。

### 学問の自由を巡る動き

| | |
|---|---|
| 1913 | 京都帝国大学総長の澤柳政太郎が、教授会の自治要求を振り切り教授７人を辞職させる |
| 1933 | 京都帝国大学教授滝川幸辰の講演内容が自由主義的であると問題視され、著書が発禁処分、本人も休職処分に |
| 1935 | 美濃部達吉の憲法学説が国体に関する異説であると攻撃され貴族院を辞職、著書は発禁処分に（その後、矢内原事件、河合事件が続く） |
| 1936 | 国体護持を目的とする日本諸学振興委員会設立 |
| 1949 | 日本学術会議が過去の反省と平和的復興への貢献の決意表明のもと発足（83年に学会推薦・首相任命制に変更） |
| 2003 | 国立大学法人法で、学長任命権は文科大臣に |
| 2014 | 学校教育法改正で、教授会は学長の諮問機関に |

2020・11・17　（20日の「視点」は休みます）

---

# 日々論々

## 東京すくすく　編集チームから

# せぬ妊娠「縁組」や里親制度知ってほしい

民間団体が開く特別養子縁組説明会の一場面＝茨城県土浦市で

中絶できる時期を過ぎてから妊娠に気付き、「自分では育てられない」と苦悩しながら出産した女性を取材しました。養子縁組を仲介する民間団体の支援を受け、赤ちゃんを育てたい、と望む夫婦にその子を託した女性。出産までの経緯と今の思いを伝えた「予期せぬ妊娠、生後五日で息子を託した母親　特別養子縁組が支えた『ごめんね』の先の人生」の記事＝QRコード＝には、「もっと多くの人に特別養子縁組や里親の制度を知ってほしい」という声が届いています。

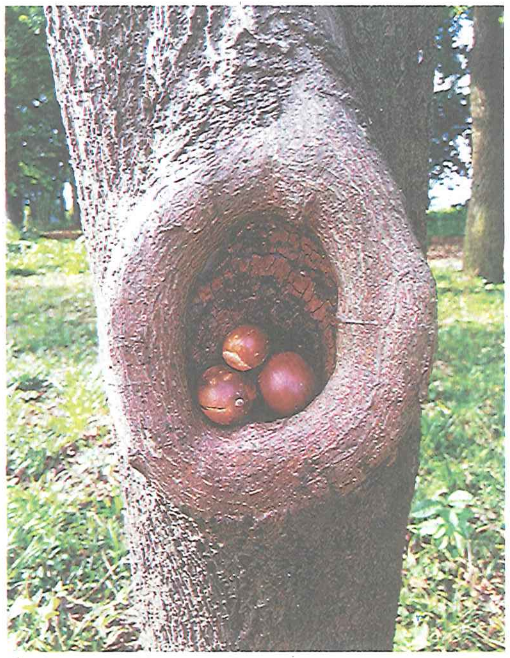
八年間の不妊治療を経て、特別養子縁組した息子を育てる夫婦は「生みのお母さんの気持ちを知り、いろんな背景や気持ちがある中で、わが子のための最善策としての決断なのだと再確認できました。バトンを受けた者として、しっかりと親となれるよう責任を持って子育てさせていただきたい」と投稿してくれました。

「以前は子どもを産んだのに育てられない親はありえないと思っていた」という女性は、自身が思い通りにいかない育児に直面し、考えが変わったそうです。「育てたくても育てられない人がいる。産みたくても産めない人がいる。両者を結ぶ制度が普通になり、特別な目で見られない世の中になることを願います」

予期せぬ妊娠を相談できなかった女性が、赤ちゃんをあやめてしまう事件を繰り返さないために。別の選択肢を身近に

## 私の一枚

### 小さい秋みつけた



近所の秋留台公園で、かわいいものを見つけました。こんなところにドングリが！　小人かリスのものかな?と楽しく想像しました。

（東京都あきる野市　高村　裕子）

＊「私の一枚」を募集中。宛先は⑤面に。

# 」なのか

## 太郎の国際通信

「やったね！！！！」

米大統領選でバイデン氏が勝利宣言した七日、発信されたこのツイートが、いま注目を集めている。

バイデン氏の当確を祝う同様のツイートが飛び交う中で、これが注目されたのは、発信者の名前がキャサリン・マードックで、メディア王でFOXニュースのオーナー、ルパート・マードック氏の次男の嫁だったからにほかならない。

FOXニュースは、今回の大統領選では「トラ

話す記者会見の中継を、キャスターのニール・カブート氏が「根拠がない」と、切断してしまった。

加えて、やはりマードック氏の支配下にあり、トランプ支持を打ち出していた大衆紙「ニューヨーク・ポスト」も、八日の一面で「ジョー（バイデン）の時代だ」と、大見出しで伝えて、保守派の読者を驚かせた。

ルパート・マードック氏は保守派として知られるが、必ずしもトランプ大統領を強く支持していたわけではないといわれる。

また、現在、実質的な経営者である長男のラクラン氏や、次男でキャサリンさんの夫のジェームズ氏は進歩派だとされている。

そこでバイデン氏の当確を機に、マードック系